



学長あいさつ

Message from the President

秋田大学は、平成26年度の大幅な組織改革によって、国際資源学部、教育文化学部、医学部、理工学部の4学部体制となりました。平成28年度からはさらに、大学院を国際資源学研究科、教育学研究科、医学系研究科、理工学研究科の4研究科体制とし、総合的な教育研究体制が整いました。社会から求められている大学の使命である、最先端の教育研究を強く意識した体制の地盤がより強固なものになりました。

文部科学省は大学経営の基盤となる運営費交付金改革において、全国の国立大学の強み・特色を発揮し、機能強化の方向性に応じた取組をきめ細かく支援するため、国立大学法人運営費交付金のなかに、①地域のニーズに応える人材育成・研究を推進、②分野毎の優れた教育研究拠点やネットワークの形成を推進、③世界トップ大学と伍して卓越した教育研究を推進の「3つの重点支援の枠組み」を創設しました。私たちの秋田大学は、①地域のニーズに応える人材育成・研究を推進する大学を選択しており、これまで以上に地域貢献に資する最先端の教育研究

が求められております。

秋田大学はこれまで(1)世界・地域を見据えたリーダーを育む(2)世界・地域を視野に未来を創造する(3)地域と共生し豊かな社会を創る(4)地域に根ざし世界を目指す、というビジョンに沿って歩んでまいりましたが、その基礎となるものは世界と地域に貢献する最先端の研究、およびその目的にアプローチする研究が可能な人材の育成であります。さらに、世界は刻々と変化しており、今や想像を絶するスピードで社会が進化しているなか、我が国ではSociety 5.0(超スマート社会)への対応が叫ばれているところであります。こういった新しい社会へ十分に順応できる学生を輩出するための改革も行っております。未来に向けた最先端の教育・研究、これが秋田大学の特徴であり、強みでもあります。不確実な未来に向けて、自信を持って羽ばたいていける学生の教育、今、これが最も求められているものと認識しています。秋田大学に関わる全ての教職員が「学生第一」を掲げているのも、そこにあります。学生にきめ細やかな教育環境を提供し、知的好奇心を育てていくことが、世界と地域への道標となるのです。

秋田大学は、この地を軸に、世界を視野にした四つの学部を構えております。そこには、私たちが育んできた「歴史」と「誇り」があります。

教育文化学部。ここには、小中学生の学力日本一という秋田の、教育の支柱となる教員を養成してきたという実績があります。学校教育課程においては、きめ細やかな教育プログラムに加え、伝統に育まれた教員養成を展開しています。教員は次世代を担う皆さまを良き「後継者」として育てて世に送り出し、時代を繋いでおります。地域文化学科では、何事にも対応できるための「教養」を身に付けることを目指しております。柔軟な思考を育むことを通じて、不確実性ともいえる時代に臨む皆さんを支援しております。

私たちが暮らす秋田は、国内では有数の資源を誇る地でありました。そしてそのフィールドは今、世界へとつながっております。国際資源学部という学部名に込められた思いは、ここにあります。鉱山専門学校に始まり、鉱山学部、工学資源学部で発展させてきた、世界に誇れる研究成果と人材の育成。世界に例を見ない資源学の総合教育研究体制を敷いています。ここでは3年生になると、全員が4~5人のグループに分かれ、海外資源フィールドワークに参加します。他大学に進学した高校の同級生が、生涯行くことはないであろう地にも赴きます。資源学の現場。日本の最前線を世界で知る機会を通じて、皆さんは学問が生きていることを実感できるはずです。

理工学部は、資源系の学部であった工学資源学部から理学系の要素を取り入れた学部として発足しました。誇るべ

き研究成果が続々と秋田（大学の研究室）から発信されております。例えば、メタルナノコイルから航空機複合材成形。この研究は複合材の軽量化・低コスト化を目指すものです。次世代航空機の機体の材質への応用が期待され、世界が注視しております。

医学部においては、世界に発信できる教育研究の成果と地域医療への貢献が挙げられます。医師国家試験の合格率は例年、全国の医学部でも上位にランクされております。きめ細やかな教育の証左といえましょう。保健学科も、人を支える挑戦を続けています。看護師国家試験、理学療法士国家試験、作業療法士国家試験は、ほぼ100%の合格率を維持しています。

また、地域に貢献する教育研究活動にも力を注いでいます。秋田県の地域活性化へのさらなる貢献を目指し、平成28年度に設置した地方創生センターは、地域協働・防災と、地域産業研究の2部門から成ります。地域協働・防災部門では県内3か所に設置した「分校」を拠点に、地域の人たち、学生、教職員が一体となり、例えば米作り、オリジナルのいぶりがっこ作りなどを通じて、秋田の良さを再認識することを目指しております。また、将来の夢の実現の一步とするための「教育ミニミニ実習」と称した、教員志望の啓発活動等、故郷の誇りを広げていく試みを続けております。地域産業研究部門では、秋田県の重要政策にリンクした研究事業を展開。県内産業の育成は、「COC+事業」の目標でもある大学生の県内就職率のアップに大きく貢献できることと考えております。

さらに、医理工連携をより効果的かつ力強く推進するため、東京工業大学、秋田県医師会の3つの組織間で連携し、医療・介護機器や医薬品の開発等による産業の創生や振興に向けた取り組みを進めているところです。また、秋田県は少子高齢化の最先端県であります。このような現象により引き起こされる合併症の予防・治療は解決すべき喫緊の課題であり、秋田大学の貢献が大きく期待されているところであります。秋田大学では、このようなことを俯瞰し、高齢者医療に特化した研究拠点として、平成29年度に秋田県からの補助を受け、「高齢者医療先端研究センター」を設置し、高齢者医療の先端的な研究のほか、地域社会学の知見を踏まえた学際的な研究を推進しております。このように秋田大学は、オール秋田の中心としての役割を果たすべく活動しております。

シームレスで行われる学部教育から大学院教育。そして明確なミッションを掲げた各センター。これらが「優秀な卒業生を社会へ、そしてすぐれた研究を社会に還元する」という秋田大学の使命に応える礎といえます。その活動の成果が、2017年度に卒業した国際資源学部の1期生をはじめ、同時に改組した教育文化学部及び理工学部のほか、医学部も含めた全ての学部・学科等において、就職率100%という結果になっております。また、日経HR「価値ある大学2018年版 就職力ランキング」において、企業が選ぶ「採用を増やしたい大学ランキング」で秋田大学が堂々の全国一位に選ばれました。卒業生の「行動力」、「対人力」が高く評価されたものです。これらは、卒業生自身の努力の賜であることは言うまでもありませんが、それをバックアップする土壌が秋田大学にあることの証明であると、誇りに思っている次第です。

秋田大学を「母校」とする我々は皆、優れた学生諸君を社会に輩出すること、そしてこの地（秋田）が輝きを増すことを期待しております。

国立大学法人秋田大学長 山本 文雄